

第4学年 国語科学習指導案

平成30年10月19日（金）5校時

4年2組 児童29名（男15名 女14名）

授業者 植田 彩貴

- 1 単元名 見つけよう！伝えよう！身の回りの和と洋
『くらしの中の和と洋』（東京書籍4年下）

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまでに段落相互の結び付きを考えたり、問いや答えに注目して文のまとまりをとらえたりすることや、調べたことについて構成を考えてまとめたりすることを学んできた。

5月には説明文「ヤドカリとイソギンチャク」の学習で、助け合っている生き物について調べ、問いと答えのある文章に表現した。この活動では、図書資料の中から答えに必要な情報を選ぶことに難しさを感じる児童がいた。9月には「広告と説明書を読みくらべよう」の学習で、身の回りにある文章の役割や表し方の工夫について学んだ。本の帯やポスター、リーフレットやパンフレット等、自分の調べてみたいものの表し方の工夫を読み取ることができ、意欲をもって学習した。

4月実施のCRTでは、「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」において全国平均を下回る結果であった。課題としては、文章量のある説明文の中から、問いかけ文を見つけたり要点を正しくまとめたりすることに苦手意識をもっていることが考えられる。

(2) 単元観

教材文「くらしの中の和と洋」は、和室と洋室を取り上げ、「使い方」「過ごし方」の2つの観点で比較することにより、それぞれの良さがわかる教材である。また、順序や対比を表す語句を意識し、文と文、段落相互のつながりを読み取らせることで、文章構成を理解することに適した教材である。

本単元では、くらしの中の日本の文化と外国の文化について、いろいろな本や資料で調べる活動を通して、何をどのように比べているかを読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり、要約したりすることをねらいとしている。それぞれの良さを伝える活動をすることで、伝わりやすい文章構成を意識すること、図書資料の中から身の回りにある「和」と「洋」を比較し、良さを見つけながら読むこと、適切な文章を引用することが身に付くのではないかと考えた。

(3) 指導観

本単元のゴールは、「くらしの中の和と洋ブック」を作成することである。身近にある「和」と「洋」のそれぞれの良さについて、衣食住の中からテーマを決め、対比させながら、図書資料から適切な文章を引用しまとめる。

第一次では、身の回りには多くの「和」と「洋」があることに気付かせ、学習課題への興味をもたせる。お箸やスプーン、布団とベッドなどの写真を提示し、児童の身近にある衣食住について「和」と「洋」どちらに分類されるか考えさせることで、それぞれのイメージをふくらませる。そして身の回りにあるものから「和」と「洋」を探してくるという課題を出し、衣食住別に表にまとめながら、自分が何をテーマに「和と洋ブック」を作成するのかを決めさせる。また、教師モデルを提示

することで、明確なゴールイメージをもたせたい。

第二次では、まず引用の良さについて気付かせる活動から始める。日常生活で耳にする話題をもとに、引用があるものとなないものを比較させることで、どちらが伝わりやすいか考えさせ、引用の良さに気付かせたい。次に教科書にある説明文の学習で、和室と洋室の良さを「過ごし方」「使い方」の観点から、「和」と「洋」で対比させていることに気付かせ、自分の作る「和と洋ブック」にも「和」と「洋」それぞれの良さを書くことをつかませる。その後、説明文から適切な箇所を引用し、「過ごし方」「使い方」についてそれぞれまとめる。「過ごし方」をまとめる際には、教科書のモデル（P.63）を見ながら行い、「使い方」については自分の力でまとめさせる。

本時では、教師モデルに引用する文章を考える学習を行う。教師モデルには引用がなく、引用をすることで文章を完成させ、より説得力のある文章になることに気付かせたい。また図書の資料から、伝えたい良さに合う中心文を考え引用する活動を通して、第三次につなげたい。

第三次では、自分が選んだテーマの「和と洋ブック」を作り、読み合う活動を設定する。その際には「和」と「洋」のそれぞれの良さや違いが分かるようにまとめられているか、さらに伝えたい良さに合うように文章の引用が正しくできているかに着目し評価をさせるようにする。

3 単元の目標

○和と洋の良さをどのように比べているか読み取ることができる。

○選んだテーマの和と洋の良さを伝えるために、引用したり要約したりすることができる。

～学校図書館の活動を通して付けたい力（本校系統表）より～

【引用】引用の仕方を知り必要に応じて、文章、絵、図表、写真、グラフなどを引用する。

4 重点指導事項

【C読むこと(1)エ】 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○くらしの中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組もうとしている。 ○目的に応じて引用したり要約したりして、「くらしの中の和と洋ブック」を作ろうとしている。	○自分の考えを述べたり調べたことを紹介したりするために、教材文から「和」と「洋」についてのそれぞれの良さを引用したり要約したりしている。 【C読むこと(1)エ】	○段落相互の関係に注意しながら、順序や対比を表す語句の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いている。 【伝国(1)イ(ク)】

6 学習指導計画（全 13 時間）

次	時	学習内容	評価			
			関	読	言	評価規準【評価方法】
一	1	○身の回りにある和と洋を知る。 ・和と洋クイズをする。 ・和と洋のそれぞれのイメージを考える。 ・身の回りにある和と洋を想起する。	○			関くらしの中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 【発言・行動観察】
	2	○集めてきた和と洋を衣食住の3つのグループに分けて模造紙にまとめる。 ・教科書教材を読み、「和と洋ブック」を作成するというゴールを知る。	○			関和と洋の具体例を衣食住の観点でグループ分けしようとしている。 【発言・行動観察】
二	3	○「和と洋ブック」を作成するために、衣食住の中からどのテーマで書くかを決める。 ・自分が調べたいテーマの図書を選んで読む。		○		読並行読書の中から、自分の書きたい和と洋についての本を選んで読んでいる。 【発言・行動観察】
	4	○引用について知る。 ・どちらが相手により伝わりやすいか考える。 ・一つの主張に付け足すにはA,B,Cのどの文章が適切かを考える。 ・引用することの良さについて考える。		○		読引用のある文とない文を比べ、良さについて考えている。 【発言・行動観察・ノート】
	5	○教科書本文の構成を捉える。 ・序論、本論、結論に分ける。 ・本論を3つに分ける。 ・教師モデルを、序論・本論・結論に分ける。		○		読段落に書かれている内容に着目し、教材文を序論/本論/結論に分けている。 【発言・行動観察・ノート】
	6	○和室と洋室の過ごし方の良さの述べ方を読み取る。 ・和室にも洋室にも良さがあるということを読み取る。 ・「一方で」「それに対して」など、対比に使われる言葉を知る。		○	○	読「過ごし方」の観点で、和室洋室のどちらにも良さがあることを読み取っている。 言対比を述べる時に使われる言葉を読み取っている。 【発言・行動観察・ノート】

	7	<p>○和室と洋室の使い方の良さの述べ方を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和室にも洋室にも良さがあるということを読み取る。 ・本論2と比べると、中心文の書かれ方が違うことに気付く。 		○	○	<p>読「使い方」の観点で、和室洋室のどちらにも良さがあることを読み取っている。</p> <p>言段落相互の関係をつかみ、引用する時に使う文章を見つけている。</p> <p>【発言・行動観察・ワークシート】</p>
	8	<p>○和室と洋室の過ごし方の良さについて引用をもとにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過ごし方について中心文を引用し、教科書モデル(P.63)を参考にまとめ方を知る。 		○		<p>読和室と洋室の過ごし方の良さのまとめ方を見つけている。</p> <p>【発言・行動観察・ノート】</p>
	9	<p>○和室と洋室の使い方の良さについて引用をもとにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使い方の良さについて、中心文を引用しまとめる。 		○		<p>読和室と洋室の使い方の良さについて適切な引用をしてまとめている。</p> <p>【発言・行動観察・ノート】</p>
	10 本 時	<p>○教師モデルの文章を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用のない教師モデルを読む。 ・引用をするとさらに説得力のある文章になることに気付く。 ・資料の中から、中心文を引用し、和と洋それぞれの入浴方法の良さについてまとめる。 		○		<p>読資料から伝えたい良さに合う文を引用している。</p> <p>【発言・ワークシート】</p>
三	11 ・ 12	<p>○「和と洋ブック」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行読書から、自分が選んだテーマについて情報を集める。 ・中心文を引用し、「和と洋ブック」を作る。 		○		<p>読並行読書から引用した文章をもとに、和と洋についてまとめている。</p> <p>【ブック・行動観察】</p>
	13	<p>○「和と洋ブック」を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で読みあい、おすすめのブックを決める。(言いたいことと引用の内容が合っているかの観点でみる。) ・ブックに付箋でコメントを書く。 		○		<p>読友達のブックを読み、引用の使い方が合っているかを考えている。</p> <p>【発言・行動観察】</p>

7 本時の指導 (10/13)

(1) 本時の目標

○教師モデルをより良くするために、資料から入浴方法の良さを伝える文章を引用することができる。

(2) 本時の評価規準

読 資料から伝えたい良さに合う文を引用している。

達成基準 (ルーブリック)

A	B	C
資料から適切な文章を引用し、その根拠を考えている。	資料から適切な文章を引用している。	資料から文章を引用することはできているが、適切な文章ではない。

(3) 準備物

- ・和と洋の入浴方法についての資料・学習計画の掲示物・モデル文の掲示物・TV

(4) 学習の展開

	主な学習活動 [学習形態] ・予想される児童の反応	○指示・支援等 □評価規準 【評価方法】 ★支援を要する状況と判断される児童への手立て
つかむ (5)	1 前時の復習をして、本時の学習の流れを確認する。 ・引用の仕方を復習する。 ・引用なしの教師モデルを音読する。 ・和と洋それぞれの良さが書かれた主張の文はどれか確認する。 ・教師モデルのどの部分に引用文を入れるか考える。 ・教師モデルに足りないものを考える。	★学習計画をもとに、本時の活動を確認させる。 ○前時までの引用の仕方をもとに、文章の構成や使う言葉を確認させる。 ○和と洋の入浴の仕方についての教師モデルを音読させる。 ○教師モデルの主張が書かれた文はどれか考えさせる。主張に合う引用を見つけることを確認する。 ○教師モデルのどこに引用文を入れると良いか考えさせる。 ○児童の言葉でめあてを考えさせる。
	2 本時のめあてを確認する。[全体] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">和と洋の入浴方法の良さを伝えるために、資料のどの文を引用したら良いだろう？</div> ・資料を読む。	○めあてを早く書き終えた児童は、引用なしの教師モデルを読む。 ○資料を読み、各文に①～⑤の番号を書かせる。

<p>考えを持つ (10)</p>	<p>3 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 和の入浴方法の資料を読む。 教師モデルの文章に合う文を1つ選ぶ。 なぜその文を選んだのか理由を書く。 <p>4 グループ学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの文のうちからどの文を引用したか話し合う。 	<p>○和の入浴方法について書かれた5つの文から1つ選ぶ。</p> <p>○どの文が良さを伝えることに合うかを考える。</p> <p>○なぜその文を選んだかノートに理由を書かせる。</p> <p>★机間指導をして、引用する文を見つけられていない児童にはヒントカードを見せる。</p> <p>○一人学びで5つのうちから、どの文を選んだかを共有し合い、理由も話し合わせる。</p>
<p>学び合う (15)</p>	<p>5 全体学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの文のうち、どの文が引用に適しているかを考える。 	<p>○良さが伝わらない文は引用には適さないことに気付かせる。</p> <p>○引用する時の観点は「良さが伝わるかどうか」ということに気付かせる。</p> <p>○児童の大半が正答を選んでいた場合、教師から他の文はなぜ適切ではないのか理由を問う。</p>
<p>まとめる (3)</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>○児童の言葉でまとめさせる。</p> <p>○資料から引用をする時は良さが伝わる文を選ぶことや、引用があるとより説得力のある文章になることに気付かせる。</p>
<p>ためす (10)</p>	<p>7 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> 洋の入浴方法について、資料から適切だと思う文を引用する。 どの文を引用したか全体で共有する。 	<p>○資料から、洋の入浴方法について主張に合う文を引用させる。</p> <p>読資料から伝えたい良さに合う文を引用している。 【ノート】</p>
<p>振り返る (2)</p>	<p>8 授業の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りを発表する。 	

【板書計画】

くらしの中の和と洋

引用の仕方

㊦

和と洋の入浴方法の良さを伝えるために、資料から引用しよう。

○資料のどの文を引用したら良いだろうか？

〈和の入浴方法〉

④の文は、内容が主張と合っている。伝えたい良さに説とく力が出る。他の文は、合っていないから引用できない。

㊧

引用するときは、良さが伝わる文を選ぶ。

〈洋の入浴方法〉

ふりかえり